

都道府県別賞一等

目に見えない安心

山口県 宇部市立川上中学校 二年生

寺戸 有惟

「生命保険って、何なんだろう？」そんな疑問を感じたのは、つい最近で、両親が生命保険の更新について話していたのを偶然耳にしたからです。両親の話はほとんど理解できませんでしたが、何度も姉弟の名前が出たのでついつい話を聞いていました。今回、母に生命保険について尋ねる良い機会になりました。

私は、母から帝王切開というお腹と子宮を切る手術で生まれました。三歳上の姉も二歳下の弟も、全員帝王切開です。母は「生命保険は万が一の時に安心を手にするための備えだと思えよ。」と教えてくれました。姉を産む前、母は二カ月以上入院をしていたそうです。お腹の中で少しでも長く育てるためだったので、どうしても必要な入院だったそうです。その入院は、病院に行つて急に決まり、父のことや家のことなどいろいろな気になることばかりの中で、一番の心配は仕事を休まなければならないことでした。職場に迷惑をかけてしまうのはもちろんですが、お給料がもらえず入院のお金を払えるのか不安でたまらなかつたそうです。入院期間がどれぐらいになるかも全く分からなかつたことも大きな不安につながつたそうです。

そんな時に、病院のスタッフさんから「生命保険に加入しているか」と聞かれ、初めて保険のことを思い出したようです。その保険は、私の祖母が母のために加入したものだつたそうです。その後は、保険会社の人が丁寧に説明してくれ、母は安心して入院生活を送り無事姉は生まれました。「おばあちゃんママのために保険に入っていてくれたから、助かつたんだよ。だからパパとママも、有惟たち三人のための保険にちゃんと入ってるよ。」母はそう話してくれました。両親は、私たちを育てる上で万が一どちらかが病気やケガでいつもの生活を送れなくなった時のために、私たち三人が成人するまではしっかりと保険を見直すそうです。もし父が病気や事故で働けなくなったら、私の学校生活や将来の進路に大きく影響が出るでしょう。それが母でも、全く同じです。両親が、私たちに苦勞をかけないようにと保険に入ってくれているおかげで安心して、生活できているのだと気付きました。私は普段、家族に守られていることを当たり前に感じてしまっていますが、保険という仕組みもその一部であり、私たち家族全員の生活を支えてくれているのだと思いました。

保険には、ケガや病気の時のための医療保障、亡くなった時の死亡保障など様々な保障があるそうです。それらは全て安心を守るために必要な備えです。

第63回中学生作文コンクール

それは万が一の時、安心して前を向いて生きていくための支えにもなるはずなので、健康なうちから保険について考える必要があると思いました。

大人になり、生命保険に入することは家族に対する責任の一つになると思います。「大丈夫だろう」とのんびり考えるのではなく、「もしも」の時のためにどうするかを真剣に考える必要があり、生命保険に加入するのは家族を思いやる気持ちの表れであり未来への約束だと思います。

生命保険について考える中で、私は「安心」という言葉の重みを改めて感じました。人が安心して生きていくためには、保険のような目に見えない支えが必要で私たちが未来に希望を持つための大切な仕組みだと思っています。こうした仕組みに関心を持ち、感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいと思っています。